

トルストイ「戦争と平和」を読書中「グリッサード」に遭遇した。前後も読んでいただきたいので、少し長くなるが、以下、引用する。

「
楽団のステージから、歯ぎれのいい慎重におさえた、心を弾ませるようなワルツのリズムが流れた。皇帝はにこやかにほほえみながら広間を見やった。一分ほど過ぎた。まだだれも踊り出さなかった。幹事役の副官がベズウーホフ伯爵夫人のまえに歩みよって、彼女を踊りに招いた。彼女はあでやかにほほえみながら、片手を上げると、相手を見もしないで、その手を副官の肩にのせた。こうしたことの達人である幹事役の副官は、しっかりと相手の婦人の背を支えると、自信たっぷりにはじめはゆるやかに、確実にリズムを刻みながら、客たちの輪にそって流れるような

グリッサードで進み、

広間の隅まで来ると、相手の左手をとって、くるりと回した、そして次第に急調子になってゆく音楽をとおして、副官の素早い巧みな足さばきの生むリズムミカルな拍車の音が聞こえるだけとなり、三拍節ごとのターンに、相手の夫人のビロードの衣装が炎の燃え上がるかのようにはひるがえった。ナターシャはそれを見つめていたが、このワルツの滑り出しを踊っているのが、自分でないことを思うと今にも泣き出したような気持だった。

」（※1）

前後の文脈からなにかしらダンスの型の呼称とわかるもので、翻訳者の工藤先生の逡巡に思い至ることができる。

グリッサード。バレエでは頻用されるタームである。光文社古典新訳文庫では、「滑歩」があてられ、ルビをグリッサードと振っている。（※2）滑歩という熟語は見慣れないし、どう読むのかも定かでない。グーグル翻訳アプリを使うと、*glissade*（フランス語）は「滑り台」。英語の変換をお願いすると、*slide*。いまは*youtube*で検索すればグリッサードのお手本を掌の上で見ることがきる。ただし、副官殿のダンスは女性と組む社交ダンスの中でのステップなので、*youtube*が探し出してくれるバレエのレッスン動画のものは異なる。戦争と平和の副官殿はどんなステップを踏んだのか？ 正解は分からないものの滑らすような足の運びができるダンス上手と、トルストイはこの場で描きたかったことは、わかる。体の動きを文字で記述するのは、難しい。

前置きが長くなった。

私が属する大人バレエ教室の二〇二二年四月の第二日曜日に行われた発表会の演目は、ドガの踊り子の絵をテーマにしたオリジナル作品だった。

オペラ座バレエ団の練習場に自由に入入りできたドガは、同劇場のバレリーナをモデル

にした作品を多く残している。パリ・オルセー美術館所蔵の、練習場に十数人のバレリーナとグレイのフロッグを着た男性講師一人が描かれている、その一枚が演目のモチーフとなる。

はじめは、絵の人物像を真似た、さまざまな姿勢でポージング(停止状態)する。緞帳が上がる。緞帳の後ろの紗幕は降ろされたままで、みんなのシルエットが浮かびあがる。イントロの流れる間、ドガの絵を思い起こしてもらうためにポージングが続く、

紗幕が上がリ、舞台が始まる。ポージングが解かれ、練習が始まる。

―

バレエにおいて全体が動かなくなる瞬間があるが、その数秒のあいだ踊り子たちの集団は、固定されてはいるが持続しない装飾、生きた身体がそれぞれある姿勢をとったままぴたりと停止し、不安定なものを独特の形で形象化する組織体(システム)を観客の眼差しの前に差し出す。踊り子たちはある姿勢を取ったまま、いわば身動きできなくなっているのだが、その姿勢は通常の姿勢―力学と人間の力のおかげで、一定の状態を維持したまま…別のことを考えていられる―そんな姿勢とはまるでかけ離れた姿勢となってしまうている。

そこから次の驚異的な印象が生まれる。〈ダンスの世界〉には休息のための場所がない、という印象だ。不動の姿勢は力づくで強いられたもの、一時的で、ほとんど暴力的な状態であり、それに対して跳躍、歩調をとった歩み、つま先立ち、軽い跳躍(アントルシヤ)や目もくらむほどの旋回が、きわめて自然なあり方、自然な行為の仕方なのだ。ところが、日常のありふれた〈世界〉では、行為は過渡的段階にすぎず、時々行為にエネルギーを込めることはあっても、そのエネルギーの全ては結局、何らかの仕事をやりとつくすことに用いられるばかりで、過剰に興奮した身体と言うバネによって再開したり、自分自身を更新したりすることはない。このように、これら二つの〈世界〉のうちの一方の世界でいかにもありえることが、もう一方の世界ではきわめてまれな偶然となっている。

―(ダンスについて ポール・ヴァレリー)※3

ドガの絵はレッスン風景の一瞬を切り取ったものなので、その前後は空想するしかない。しかし、バレエのレッスンは往時のメソッドを継承するものだから、われわれなりに前後を、偶然ではなく、埋めることができる。

絵の中の男性は、バレエ講師。私の役回りだ。私の繰り出すアンシエヌマンに従って、バレリーナが踊る。

―

- 1 タンジュ4回。
- 2 プレパレーション。パドシヤ・シヤンジュマン・パドシヤ。右ヘグリツサード・アッサンブレ。左ヘグリツサード・ジュツテ・アッサンブレ。プレパレーションまで。
- 3 バーについている二人の姿勢を指導。
- 4 左足を引くプレパレーションから、パッセターン4回。
- 5 上手へ歩き、バレリーナの動きを観察。

「パトロン役の男性が街で見つけたジプシーダンサーとともに登場。パトロンは彼女を団員に加えるよう、講師に対して推薦する。」

講師のマイム

- ・上から下へ 審査する視線
- ・二人の前を横切る
- ・もう一度 上から視線
- ・左掌をのばして手のひらをみせる (拒絶の意思表示)

「ジプシーダンサーが踊りだす。講師のサポートを得て、アラベスク・ターン。パトロンの方に移動してパトロンのサポートを得て、アラベスク・パンシェ。センターに歩いて、二人の男性のサポートを得て、アレイチュードでラウンド。暗転。バレリーナたちはシューズを変えて、一曲の通し稽古。ジプシーダンサーも混じり、音楽が進むごとにセンターへポジションを変えていく。」

次の曲は、舞台本番。ジプシーダンサーは純白のチュチュをまとったエトワールに変身して、センターで踊り終え、両手アロンジェで停止する。

舞台両端で見守るパトロンと講師。幕。

リハーサル練習を重ね、ドラマとダンスが組み立てられる。振付が進むごとに録画して、動画をメンバーに共有させるのが、私の役割として定着した。

布団干し用の大きい洗濯ばさみを倒立させて、iPhoneをはさみ、スタジオの端に設置して、カメラを起動し、録画スタートボタンをポチって、自分の位置につく。

動画のサイズが5分以内ならLINEでお手軽に共有できる。一曲分は、そのサイズで十分収まる。しかし、LINE使わない主義なので、という方がお一人、LINEを使うと詐欺にひっかかってしまうからと、おとうちゃんが許さない、という「らくらくフォン」の方がお一人いて、共有を徹底できない。WEBで見てもらう。iPhoneの動画は、ファイル形式が独自なので、汎用性の高いmp4形式のファイルに変換しなければならない。

- 1 動画をiPhone中でリミシング
- 2 ノートPCのドキュメントに保存替え
- 3 Adobe プレミアプロで mp4ファイルに変換
- 4-1 レンタル・サーバーにUP
- 4-2 youtube のマイサイトに公開設定を「限定公開」(公開設定と非公開設定の間にあたるもので、割り当てられたURLを知っている人だけが再生することが可能)でUP
- 5 メールでURLを案内

すこし作業時間がかかるが、かかさずお礼の返信メールをいただける。振付を覚える力は、

一人一人異なるが、動画を再生して、自主練習に時間をさくことで、その差を埋めてくれる。

「

オペラ座の楽屋裏で幾夜も過ごし、ロンシャン競馬場のパドックによく行った。人間の形態の最も敏感な観察者、女性の、身体の線と姿勢の最も残酷な愛好家、極めて繊細な馬の美しさの洗練された目利き、デッサンを描くときには、この世の中で最も知的で最も思慮深く、最も要求が厳しく、最も執拗な画家だった。

「(ヴィクトール・マッセ通り三十七番地 ポール・ヴァレリー (※4))

四月の第二日曜日は、桜花賞の日。中央競馬会プロモーションは〈競馬鑑賞〉というキーワードを打ち出している。履歴書の趣味・特技に競馬と書いてよいか? という質問に、映画鑑賞という趣味欄無難ワードにひっかけて〈競馬鑑賞〉と書けば、とアドバイスする。賭けてないよ、賭博に溺れてないよ、というニュアンスはある。

そうだ。鑑賞に足りるのは、ごくごく珍しい白毛馬のソダシ号。新馬戦から四連勝中。純白の馬体は、〈鑑賞〉のキーワードにぴったり。

本日は舞台本番なので、出走各馬のパドック下見をじっくり見る余裕はないので、ソダシの単勝を少額ネット投票して、参加した。他の馬に一番人気を譲ったが、ゴールは譲らなかつた。白い桜。競馬人気を上げるのに一役も二役も買う。

現役生活を終えて、繁殖馬となって、白毛の男の仔を産んだら、名前は〈ツグハル〉か〈フジタ〉でどうだろう。藤田嗣治は、白を基調にした油彩で、パリで成功した。まだ日本馬が征したことがないパリ凱旋門賞に出走できれば、競馬ドラマに色を重ねることとなる。

※1 トルストイ「戦争と平和」第3部16節 新潮文庫(2巻385頁)

※2 同 光文社新訳古典文庫(3巻116頁)

※3 ポール・ヴァレリー「ドガダンスデッサン」岩波文庫(33頁)

※4 同(46頁)